

学会ハイライト

第18回日本褥瘡学会学術集会を終えて

(2016年9月2日(金)・3日(土), パシフィコ横浜)

関根 祐介

東京医科大学病院薬剤部

第18回日本褥瘡学会学術集会プログラム委員長

はじめに

日本褥瘡学会は、褥瘡や創傷の医療に関わる多職種(医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士・作業療法士など)や医用工学研究者が参加する学会として1988年に発足し、会員数が現在8,000人を超える学会です。学術集会などの活動を通じて、褥瘡の予防や治療などの問題について研究、検討を行うとともに啓発・教育活動を行っています。このたび、2016年9月2日・3日にパシフィコ横浜にて、第18回日本褥瘡学会学術集会を皮膚科学分野教授の坪井良治会長、同助教の入澤亮吉実行委員長、そして筆者がプログラム委員長で開催させていただきました。会期中は天気にも恵まれ、過去最大の7,089名の参加者に全国よりお集まりいただき、無事終了することができました。ご参加いただいた先生方をはじめ、各講演・シンポジウムの演者や座長の先生方、および学会事務局の皆様には厚く御礼を申し上げます。

本学術集会のテーマ

日本褥瘡学会はこれまで、褥瘡評価ツールとして2002年にDESIGNを発表し、さらに「重症度の判定」「治療予測」「ケアの質評価」が可能となるDESIGN-R(2008年)へと発展させました。また、褥瘡の予防・治療の普及に向けてガイドラインの作成・刊行、ガイドブックの刊行を行ってきまし

た。褥瘡患者の全国実態調査はこれまで3回行い、日本における褥瘡患者の状況と調査からみえてくる褥瘡予防・治療の問題点について発信してきました。これらの活動を通して褥瘡を取り巻く環境



図1 第18回日本褥瘡学会学術集会ポスター。

もかなり成熟してきました。そこで今回は、褥瘡に関わる新しい知見やこれまで十分に議論されてこなかった周辺疾患、さらには在宅・施設や多職種での連携について取り上げたいと考えました。そこで今回の学会テーマを「深まる知識 広がる連携」(図1)としました。

プログラム

学術集会のプログラムとしては、「会長講演」「2020年東京オリンピック・パラリンピック支援企画」「海外招待講演」「教育講演」「ワークショップ」「委員会企画」「ハンズオンセミナー」「市民公開講座」などを企画しました。開催初日は早朝から夕刻まで、10会場のすべてにプログラムを詰め込んだため、少しあわただしかったかもしれません。2日目は早朝からの開始でしたが、買い物をして帰宅して家事ができる時間に終了したいとの坪井会長の配慮のもと15:00に閉会いたしました。

2020年東京オリンピック・パラリンピック支援企画

今回の日程はリオデジャネイロでのオリンピックとパラリンピックの間の開催で、次回の2020年は東京でのオリンピック・パラリンピックということから、「障害者スポーツ選手から重度障害者へのシーティング」を企画しました。演者として、車いすバスケットの上村知佳選手をお招きしました(図2)。上村選手は1988年ソウルパラリンピックから23年間、女子車椅子バスケット全日本代表で、2000年シドニーパラリンピックでは銅メダルを獲得。その後、カナダ・アメリカチームとプロ契約し、現在は車椅子バスケットボール連盟の理事、選手としても活動されています。

上村選手は、褥瘡への認識と支援の在り方について次のようにご講演されました。「褥瘡は怖いものであると思っています。それは、リハビリテーション病院での褥瘡教育プログラムでみた褥瘡写真が強烈であったこと、同じ車いす選手の友人が褥瘡で亡くなったためです。褥瘡予防への取り組みとし



図2 2020年東京オリンピック・パラリンピック支援企画で講演する車いすバスケットの上村知佳選手。

て、毎日好発部位を触診し、さらに鏡などで確認しています。車いすなどを最適な状態に設定・調整するシーティングは、褥瘡予防のみならず競技でも重要で、年齢やトレーニングによって体格が変わると圧迫部位も変化するので、mm単位で設定を変えています。褥瘡が発生したことでスポーツをあきらめる人もいます。早期発見も大事ですが、リハビリテーションにも力を注いでほしいです」

本シンポジウムを受けて、褥瘡学会の川上重彦理事長からは、国民を巻き込んだ啓発活動と、褥瘡学会認定師を活用したシーティングの実施についても尽力していきたいとの方針を述べられました。

教育講演

褥瘡学会は非会員の参加者が多い傾向があり、例年、教育講演に多くの方が集まります。今回は、



図3 全員参加型ワークショップ「全部理解するまで帰れま10!」.

3,000人収容可能な国立大ホールで教育講演を開催，内容は褥瘡関連の教育講演として「創面は語る」「褥瘡ケアの現状と未来」「治る褥瘡外用薬の使い方」「ドレッシング材を使い分ける」「褥瘡患者・リスク者における栄養診断とケア」「褥瘡対策における外力のコントロール」を，周辺疾患の教育講演として「認知症の診断・治療・ケアと予防」「胃瘻・ストーマ周辺のスキンケア」「糖尿病足病変の局所治療」を行いました. 2,000名を超える聴講者を集めた講演もあり，大ホールでの開催が功を奏しました.

シンポジウム

褥瘡学会初の取り組みとして，シンポジウムのテーマを学会員より募集し，その中からプログラム委員会で内容を決定していきました. 多くのアイデアをいただき学会員とともに作り上げた学術集会となったと感じています. シンポジウムの内容としては「高齢者のトータルサポート」「褥瘡に対する外用薬療法の課題と今後の展望」「地域での褥瘡診療のレベルアップに向けて」「褥瘡の細菌制御と感染対策」「辛さに目を向けた褥瘡患者へのケア」「クリティカルケア領域でのマネジメント」「食事で褥瘡予防・治療をめざす」「二分脊椎症の褥瘡を考える」「薬剤師の連携で効果的な薬物療

法を実践」を企画しました. 周辺疾患についての知見を深めるために，褥瘡領域以外の専門家にも多数で講演をいただきました.

委員会企画

褥瘡学会の各種委員会が企画するシンポジウムとして「チーム医療推進委員会企画 国が推進する特定行為研修を活用して磨こう！ 褥瘡管理の技」「学術委員会企画 WG委員が語るMDRPU予防・管理ベストプラクティスのコツ!!」「在宅委員会企画 顔の見える連携から心がつながる連携」「褥瘡対策用具推進委員会企画 在宅で使う医療材料を制度と臨床の視点で整理する」「編集・倫理委員会企画 臨床研究スタート・アップ!」「危機管理委員会緊急企画 大規模災害発生時の褥瘡管理」を企画しました.

ワークショップ

褥瘡学会の恒例企画になりつつある，全員参加型ワークショップ「全部理解するまで帰れま10!」も行いました(図3). ワークショップ内で出題されるクイズに，全員が回答できないと帰れない，全員が全問正解すると座長の罰ゲームというルールで始まりました.

本年も笑いが絶えず，大変楽しく勉強する機会となりました. 1問目から全員が正解したため，帰れることが決定し，途中のひっかけ問題で全員全問正解できなかったのも，座長の罰ゲームはありませんでした.

ハンズオンセミナー

東京医科大学病院シミュレーションセンターの阿部幸恵先生による「シミュレーショントレーニング」では，褥瘡ケアの向上をめざして観察力や手技を訓練する内容で，頭と体を使っての研修を行いました. 小林記念病院褥瘡センターの古田勝経先生による「外用薬研修」では，褥瘡のお尻モデルを用いて外用薬の塗り方や，外用薬を創にとどめる方法などを実践しました. いずれのセミナー



図4 ハンズオンセミナー。ベッドなどを用いたシミュレーショントレーニング(左)、褥瘡お尻モデルを用いた外用薬研修(右)。

も大好評で、募集人数を大幅に超える参加希望者があり、抽選をさせていただきました(図4)。

市民公開講座

市民公開講座は3部構成で第1部には「在宅で介護するひとのための褥瘡のきほん」としてふくろ皮膚科クリニックの袋 秀平先生に、さらに「在宅で介護するひとのための褥瘡予防」としてサンシティ横浜の南由起子先生にお話をいただきました。第2部はジャズシンガーの綾戸智恵さんをお迎えして「介護を通しての経験」を講演いただきました。ご自身のお母様の介護を、独特の表現でユーモアたっぷりにお話しくださり、会場は笑いと涙に包まれました。第3部は「けが、やけどをした時は？」として埼玉医科大学の市岡滋先生に、「高齢者の脆弱な皮膚へのスキンケア」として東京大学の真田弘美先生にお話をいただきました。約600名の参加者にお集まりいただき、褥瘡の啓発活動を行うことができたのではないかと思います。

一般演題は当初、投稿数が少なく、予定スケジュールの猶予ギリギリまで締切延長を行いました。その結果、口演247演題、ポスター発表166演題の合計413演題と過去最高の演題数をいただくことができました。本年褥瘡学会でベストプラクティスを出した医療機器関連圧迫創傷(MDRPU)



図5 第18回日本褥瘡学会学術集会における東京医科大学病院の運営スタッフ。

の発表が多く、重要な話題であることを感じました。プログラム委員による投票にて、優秀演題賞を以下のとおり決めさせていただきました。

- ・NPPVマスクによる褥瘡発生ゼロへの取り組み
～マスクフィッティング指導の効果～
上尾中央総合病院看護部 小林郁美
- ・脊髄損傷者の褥瘡再発予防におけるリハビリテーション部門の寄与の検証
神奈川リハビリテーション病院理学療法科 森田智之
- ・亜鉛キレート形成薬剤の褥瘡治癒期間に及ぼす影響

湘南鎌倉総合病院薬剤部 長岡和徳

おわりに

学術集会でしっかりと知識を深めていただきましたが、連携を広げるためには楽しい場もなければいけません。初日の夕刻にヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルにて懇親会を開催いたしました。参加者でおいしい食事とお酒をいただきながら、坪井会長の飲み友達である、魔術師Drレオンさんによるステージショーを行いました。参加者一同、素晴らしいショーに感動いたしました。

このたびの褥瘡学会開催は、東京医科大学病院

職員の力を結集して取り組んでまいりました。皮膚科学分野をはじめ形成外科学分野、救命救急医学分野、看護部、薬剤部、栄養科、リハビリテーションなど多くの方々に企画・運営に至るまで協力をいただきました(図5)。本年は東京医科大学の創立100周年の節目で、このような特別なときにALL東京医科大学で開催できたことは大変意義深かったと感じます。

本学術集会が、今後の褥瘡治療・ケアの発展に寄与し、ご参加いただいた方々のお役に立てたのであれば幸いに思います。ご協力をいただきましたすべての方々に心より御礼申し上げます。